



4

指導ポイント



●ネットで見解をやり取りするときのポイント●

○本節の目的

ネットでは、書いてしまったことがそのまま残ってしまうため、情報の信憑性や発言の趣旨といったことが、のちのち問題となることがある。ネット上のトラブルを避けるためには、ささいな意思疎通のすれ違いを極力排除する必要があることを理解させる。

ネットでのコミュニケーションで初心者が陥りやすいのは、実社会での日常会話と同じレベルの文章を、公共の場を書いてしまうことである。対面の会話では、きわどい冗談でも気軽に言いあえるが、それは表情や態度など「その場の雰囲気」を互いに共有し、どういふつもりで相手が発言したのかを判断しているからである。また、対面の会話は記録に残るわけではないため、うわさ話のような信憑性に欠ける情報でも、「その場での話」で終わってしまう気安さがある。

一方、子どもが利用するケータイサイトは、一般的に同年代の子どもたちが集まりやすいサービス形態となっているが、当然ながら成人も参加している。書き込みの文体から、勝手に同年代だと思っていた相手が、実は大人という可能性もある。普段なにげなく見ただけで判断している情報が、ネットではまったく届かないことになかなか気づかない。

また現実社会では、子どもであることを理由に、反社会的な言動もある程度は大目に見られることが多い。しかしネット社会では、年齢や性別などの属性によって、反社会的な発言が許容されることは少ない。そういう意味では、誰が発言しても社会的責任が問われる世界であることを教えておく必要がある。

ネットの書き込みで重要なのは、「本人の態度」に集約されると言ってよい。正確な情報、一方的ではなく相手を尊重すること、物言いが丁寧であること、冷静であること、そういった態度が多くの人を引きつけ、かつ説得力を持つ。これらのテクニックは、メールでのやり取りにおいても有効である。

トラブルになったとき、メールならば2者間で解決すればよいが、ネットへの書き込みでは時に数千人、数万人単位で注目を集めてしまうため、トラブルの規模も比較にならない。上記のような正しい態度を身につけることは、本人にとっても長く使える財産となる。

問題解説 4-1 設問 1

1. 奏とタケは、なぜケンカしてしまったのでしょうか。

[模範回答]

- ・ 奏が不確かな情報を書き込んだから。
- ・ タケの文章の書き方が、乱暴だったから。

電子掲示板などの Web ページは、不特定多数の人が利用しており、情報は必ずしも正確ではない。また、自分が書き込む情報が不確かな場合は、その旨をあらかじめ断った上で発言するなど、自分が発信する情報の信憑性に留意すべきである。

また、実際の知り合いではない不特定多数の人間が書き込む電子掲示板などでは、書き込む文体

も重要である。丁寧だけでなく、その場の雰囲気に合わせて書き方であることも必要で、不自然に丁寧すぎると、かえって警戒されることもある。

問題解説 4-1 設問 2

2. 掲示板などで知らない人と情報交換や会話をして、よかったこと、失敗したことはありますか。

[回答例]

- ・好きな芸人がテレビに出る情報を教えてもらった。
- ・共通の趣味の友だちができた。
- ・乱暴な言葉を使ってしまう、ほかの利用者を怒らせた。

実際に掲示板やコミュニティサイトに書き込むような活発な生徒は、学年や情報発信の経験、本人の性格などの条件によってそれぞれ異なると考えられる。しかし、そういう活発な生徒の体験を共有させることで、インターネットでの情報交換のメリットと注意点を、親近感を持って理解させることができる。

また実際に授業のなかで、掲示板やチャットを用いた議論を体験させることも有用である。

●「議論」って何だろう？●

○本節の目的

議論の進め方は、小学生のときからホームルームなどを通して学習している。しかし、改めて「ルール化」してみることは、中学・高校でもあまり行われていないようだ。議論のルールを改めて意識することで、意見の異なる相手とのつきあい方や、議論をリードしていく力を身につけさせる。

議論本来の目的は、利害関係が異なる2者間で互いの主張を説明しあい、問題点を整理し、双方納得のいく解決策を見つけることである。議論とは口論ではなく、理性的な話し合いであることを理解させ、議論に対する恐れや警戒心を解くことが必要である。

実際に対面して議論するときには、場所と時間が限定されるため、比較的ルールを意識するものだ。しかし、ネットでの議論は、何気ないコミュニケーションの中で突発的に発生する。このとき感情的になって人格攻撃に陥ってしまうと、何らかの解決策を得ることが難しくなり、人間関係も壊れてしまう。そのため、人間関係を壊さずに意見を調整するには、冷静な議論が必要である。

本来ならば、議論には議事を進行する中立的な立場の人間がいることが望ましいが、突発的な議論ではそれも難しい。しかし、双方が議論のルールを遵守すれば、当事者のみでも議論は成立する。

「ネットである」ことが議論を難しくしているような印象があるが、実際には感情を上手にコントロールすれば、ネット上のほうが論理的な結論が出やすいというメリットがある。これは、相手と自分の発言をいつでもさかのぼることができるため、正確に参照や引用ができること、箇条書きによる条件分岐が視覚的に行えること、1つ1つの発言に時間をかけることができるため、より深い考察が可能であることなどの理由による。



指導ポイント

逆にデメリットとしては、相手の発言が記録に残るため、些細な揚げ足取りが発生する可能性がある。また、言葉を尽くして説明したつもりが、一方的に発言されたと取られてしまうこともある。

ネットでの議論は、まだ方法論が確立されておらず、多くの解決すべき課題がある。しかしながら、建設的な議論と利害調整ができれば、事態を大きく前進させることができる。こういったメリットは、ぜひ子どもたちに伝えていただきたいポイントである。